

市民アンケート調査結果

本計画の策定にあたり、市民の方の意見を反映させるため、アンケート調査を実施しました。

【調査の対象】 市内在住の18歳以上の方の中から、無作為抽出した1,000名の方を対象としました。(年代ごとの抽出率は同率としました)

【調査方法】 郵送配布・郵送回収

【調査機関】 令和6年12月24日～令和7年1月20日

【調査項目】 設問数：42問

- ・家族等の状況について
- ・日常生活について
- ・地域での支え合い、助け合いについて
- ・災害時について
- ・生活困窮について
- ・成年後見制度について
- ・自殺を防ぐための取組について
- ・地域福祉の充実に向けた取組について

【回収の状況】 今回の調査の回収率は32.2%でした。

配布数	回収数	回収率	有効回答数
1,000	322	32.2%	322

(1) 回答者の属性

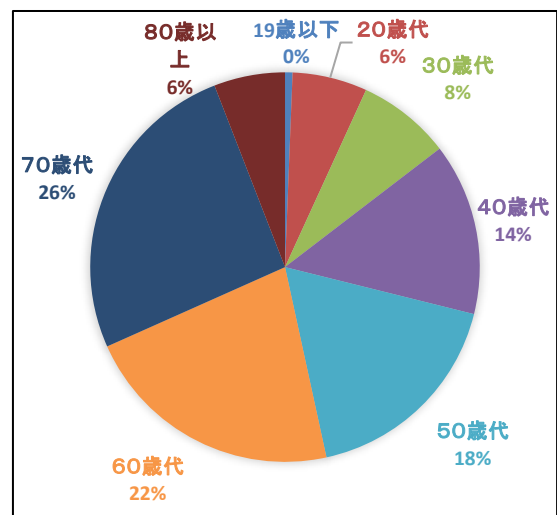
回答者の基本属性は次のとおりです。

注) 以下の調査において百分率は小数点第1位を四捨五入して示しています。そのため、単一回答(回答がひとつだけのもの)の回答比率の合計が100%にならない場合があります。

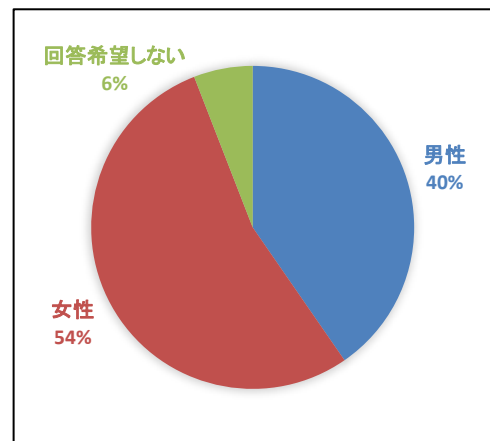
複数回答の設問については、回答の合計数が有効回答数を上回る場合があります。

比率は、その設問の回答者総数、あるいは分類別の回答者数を基礎として算出しており、複数回答(2つ以上の回答が認められるもの)の設問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

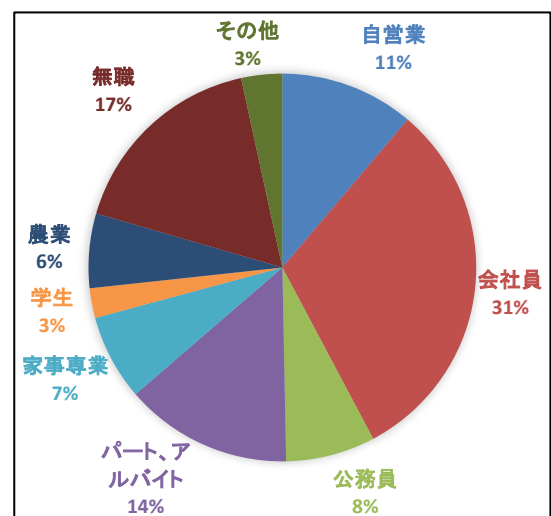
(年齢)	回答数	構成比
19歳以下	2	0%
20歳代	20	6%
30歳代	25	8%
40歳代	46	14%
50歳代	57	18%
60歳代	70	22%
70歳代	83	26%
80歳以上	19	6%
計	322	100%



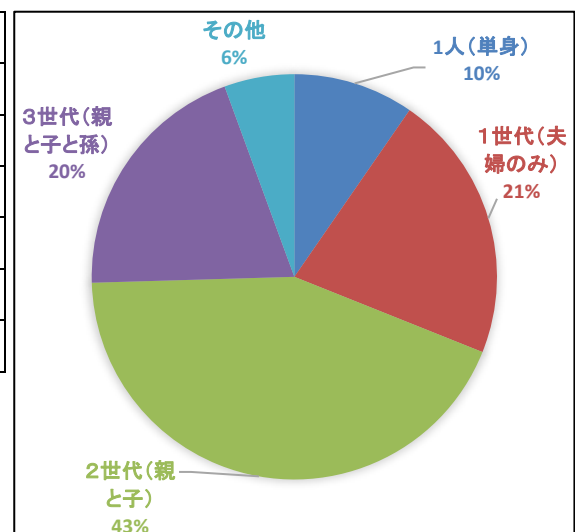
(性別)	回答数	構成比
男性	130	40%
女性	173	54%
無回答	19	6%
計	322	100%



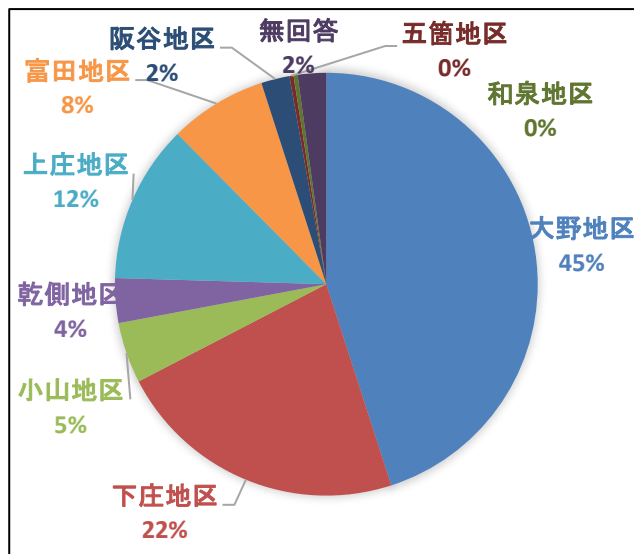
(職業)	回答数	構成比
自営業	36	11%
会社員	100	31%
公務員	24	8%
パート・アルバイト	45	14%
家事専業	23	7%
学生	8	3%
農業	20	6%
無職	55	17%
その他	11	3%
計	322	100%



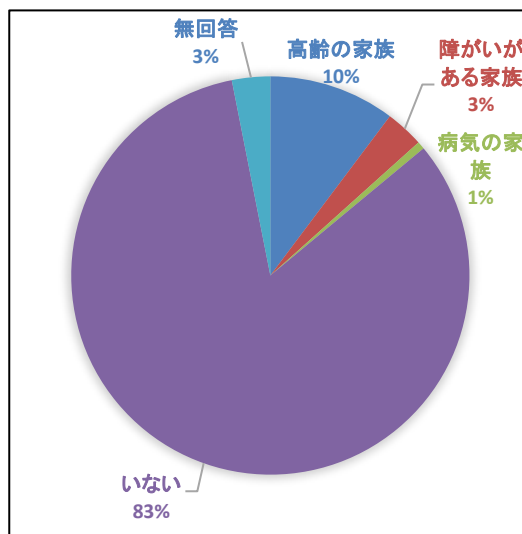
(世帯構成)	回答数	構成比
1人(単身)	31	10%
1世代(夫婦のみ)	69	21%
2世代世帯(親と子)	140	43%
3世代世帯(親と子と孫)	64	20%
その他の世帯	18	6%
計	322	100%



(居住地域)	回答数	構成比
大野地区	145	45%
下庄地区	72	22%
小山地区	15	5%
乾側地区	11	4%
上庄地区	39	12%
富田地区	24	8%
阪谷地区	7	2%
五箇地区	1	0%
和泉地区	1	0%
無回答	7	2%
計	322	100%



(介護家族の有無)	回答数	構成比
高齢の家族を介護	33	10%
障がいのある家族を介護	10	3%
病気の家族を介護	2	1%
介護していない	267	83%
無回答	10	3%
計	322	100%



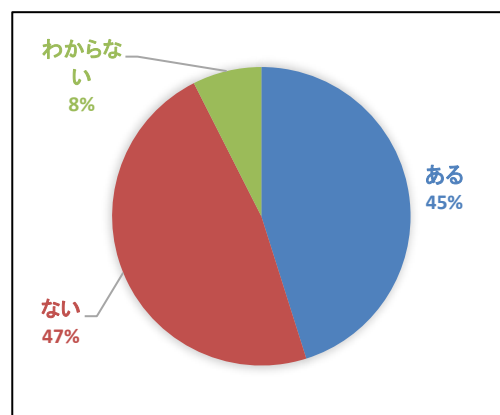
（２）調査結果の概要

地域の方々の日常生活や地域活動の状況、福祉に関する考え方などに関する設問を中心に抜粋しています。すべての調査結果については、巻末の資料をご覧ください。

<日常生活について>

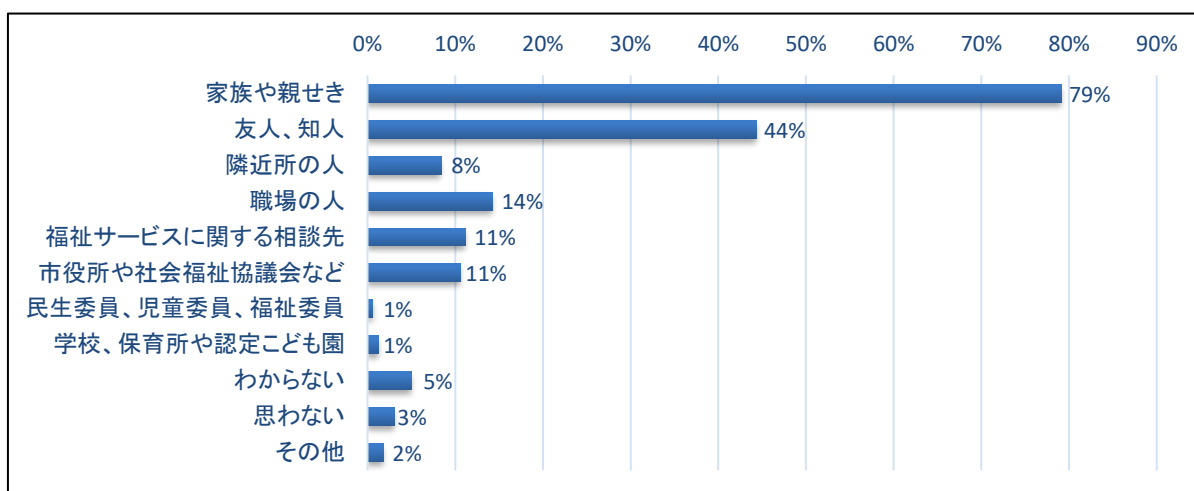
『日常生活で、悩んでいることや不安なことはありますか。』

「ある」と答えた方が４５％、「ない」と答えた方が４７％と、ほぼ半数の方が悩みや不安を抱えています。



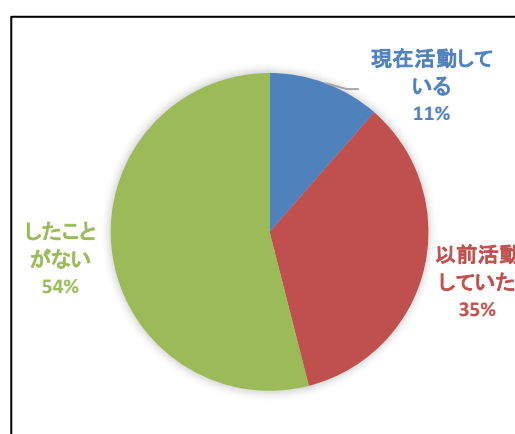
『悩みや不安の相談相手、相談したい相手』（複数回答）

「家族や親せき」（７９％）、「友人、知人」（４４％）、「職場の人」（１１％）で、身近な人への相談を希望する割合が高くなっています。



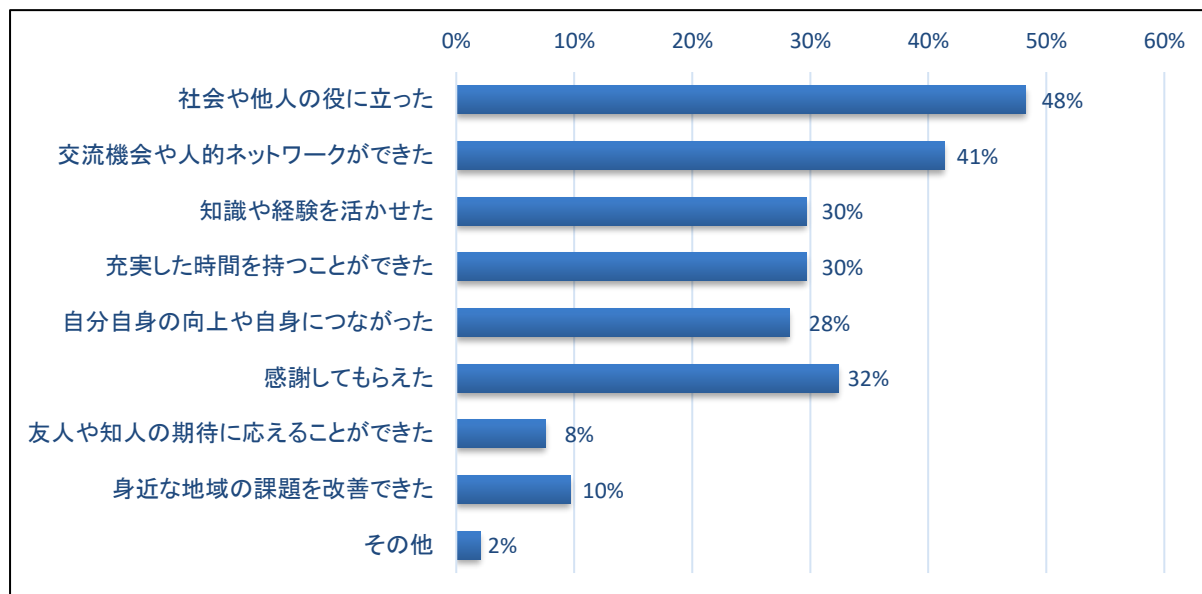
『ボランティア活動したことがありますか』

「現在活動している」（１１％）、「以前活動していた」（３５％）、「したことがない」（５４％）と、ほぼ半数の方が活動の経験があります。



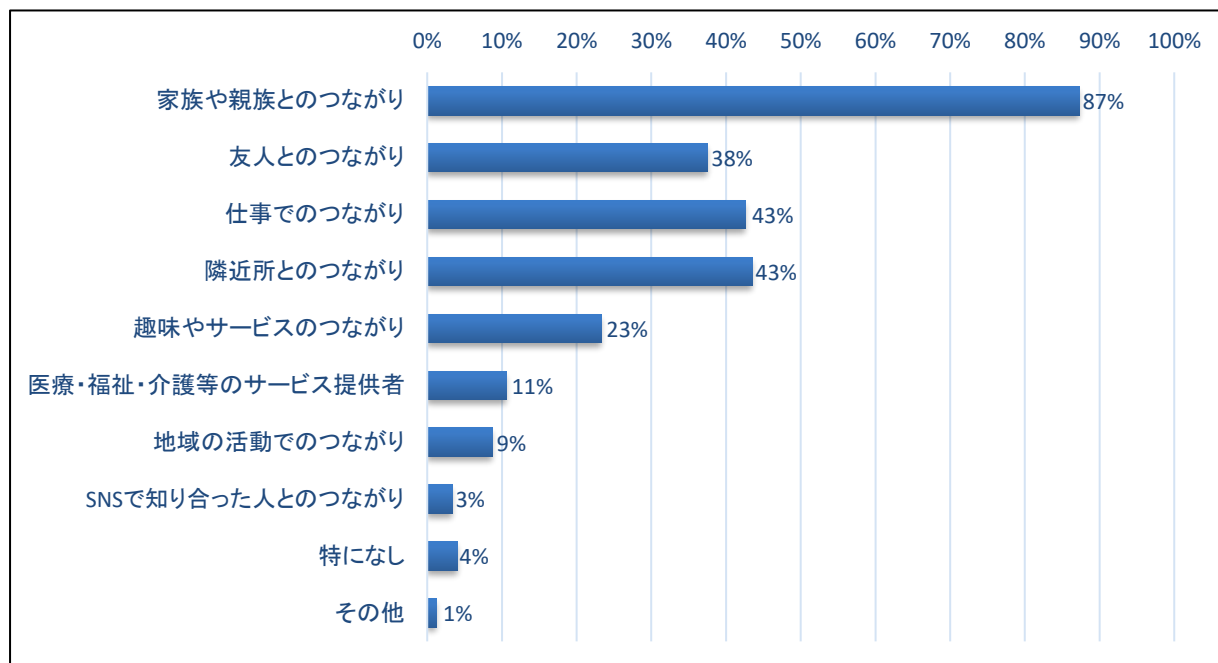
『ボランティア活動に参加してよかったと思うこと』（複数回答）

「社会や他人の役に立った」（４８％）、「交流機会や人的ネットワークができた」（４１％）、「感謝してもらえた」（３２％）と回答した人の割合が高くなっています。



『日常生活のなかで、大切にしているつながりを教えてください』（複数回答）

「家族や親族とのつながり」（８７％）、「隣近所とのつながり」（４３％）、「仕事でのつながり」（４３％）と、身近な人とのつながりを大切にしている割合が高くなっています。

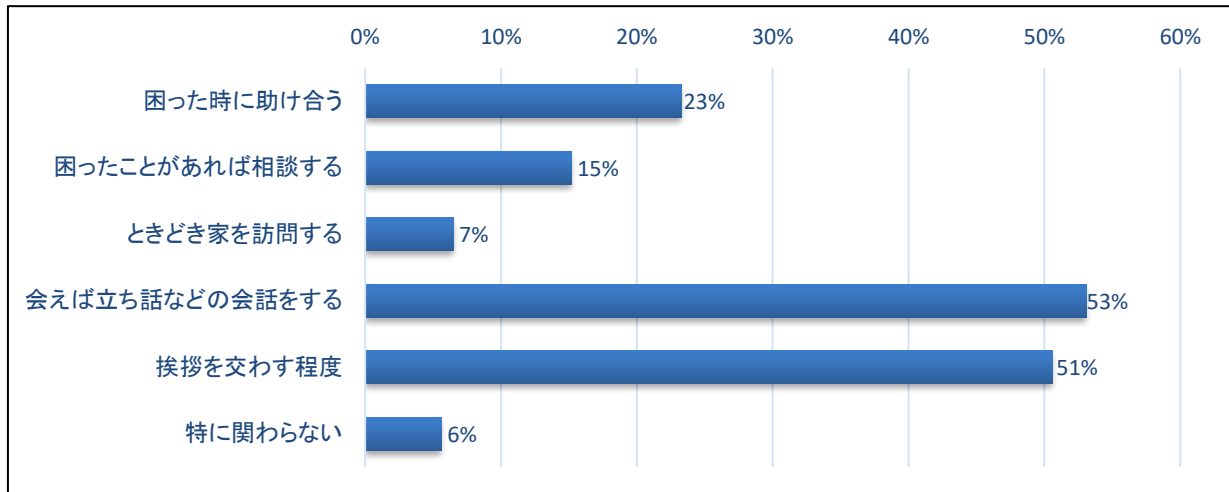


<地域での助け合い、支え合いについて>

『あなたは、現在、地域の人とどのようなお付き合いをしていますか』（複数回答）

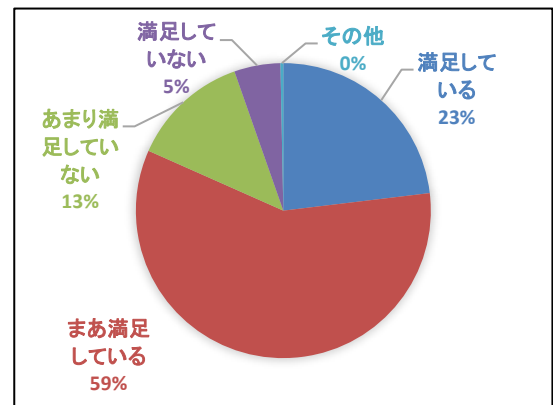
「会えば立ち話などの会話をする」（５３％）が最も多く、次いで「挨拶を交わす程度」（５１％）となっており、近所の人との付き合いが希薄になっています。

「特に関わらない」と回答した人も、６％となっています。



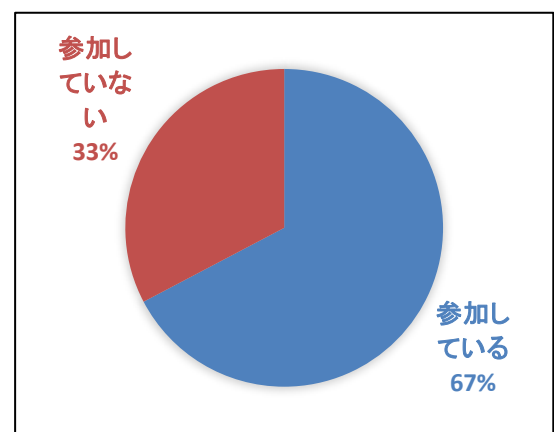
『現在住んでいる地域での暮らしに満足しているか』

「満足している」（２３％）、「まあ満足している」（５９％）と、約８割の人が現在の暮らしに満足しています。



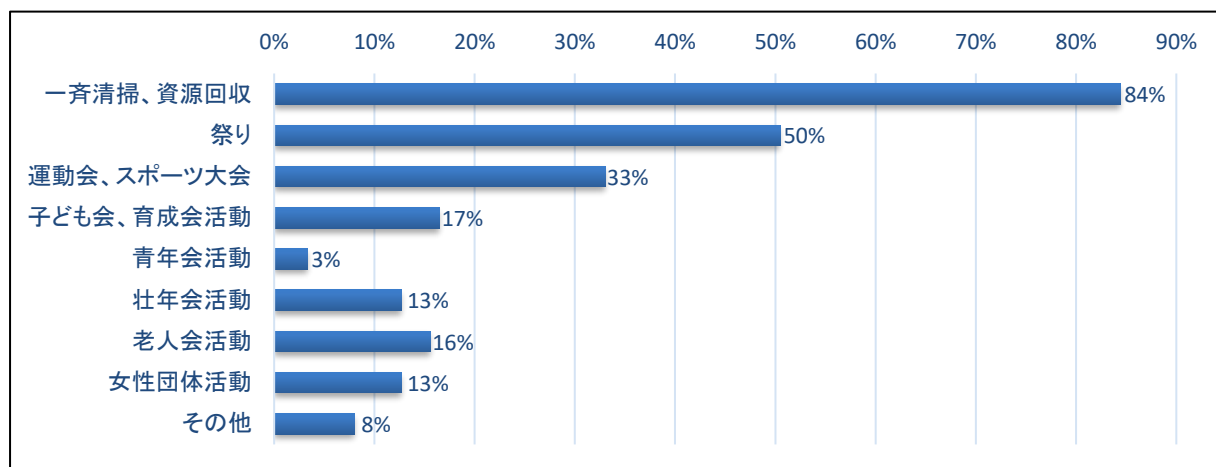
『地域活動に参加しているか』

「参加している」（６７％）、「参加していない」（３３％）と、約７割の人が地域活動に参加しています。



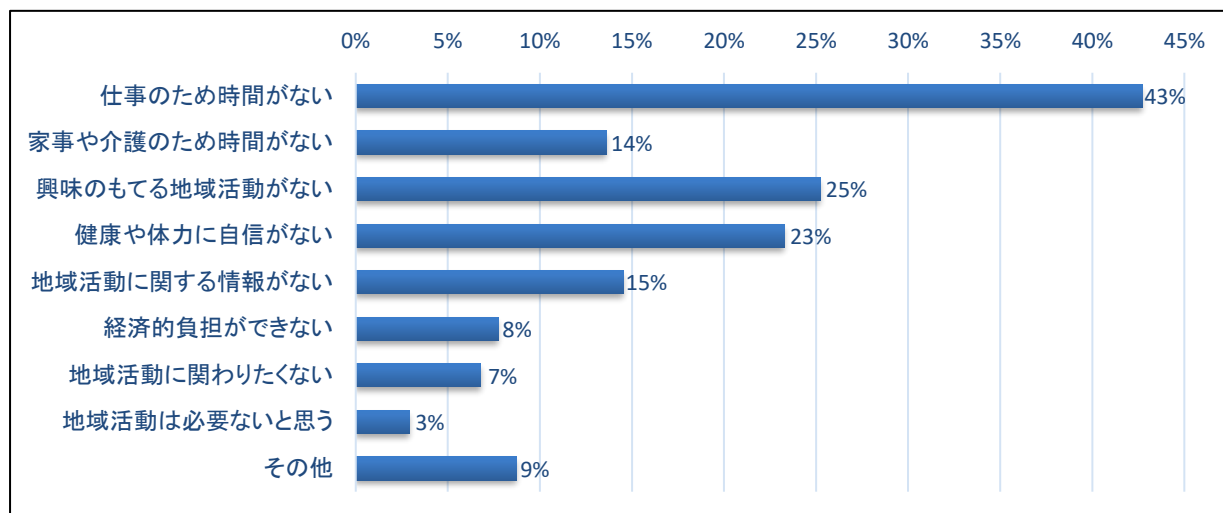
『参加している地域活動』（複数回答）

「一斉清掃、資源回収」（８４％）、「祭り」（５０％）、「運動会、スポーツ大会」（３３％）と回答した人の割合が高くなっています。



『地域活動に参加していない理由』（複数回答）

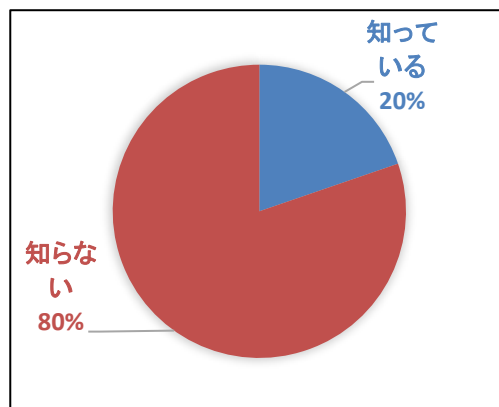
「仕事のため時間がない」（４３％）、「興味のもてる地域活動がない」（２５％）、「健康や体力に自信がない」（２３％）と回答した人の割合が高くなっています。



『第二層協議体が組織されていることを知っているか』

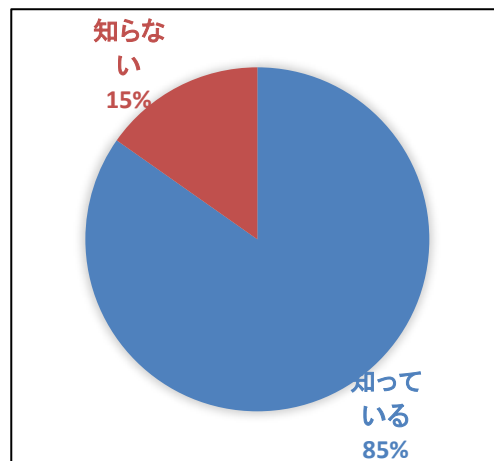
第二層協議体の認知度は２０％となっています。

※第二層協議体：多様な主体によるお互い様の助け合い活動の創出・拡充により、高齢者の日常生活を支える仕組みを充実させること、生きがいや介護予防につながる社会参加の機会を確保するため、生活支援コーディネーターを中心に住民主体の話し合いの場として設置している公民館単位の協議体



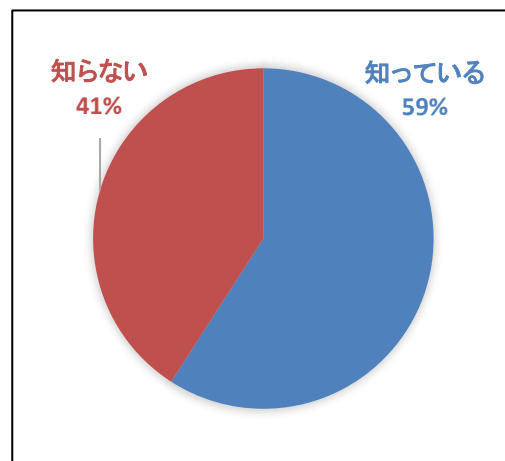
『地域には、民生委員・児童委員がいることを知っていますか』

民生委員・児童委員の認知度は85%となっており、前回の調査結果65%から大幅に増えており、民生委員・児童委員の認知度が高まっていることが分かります。



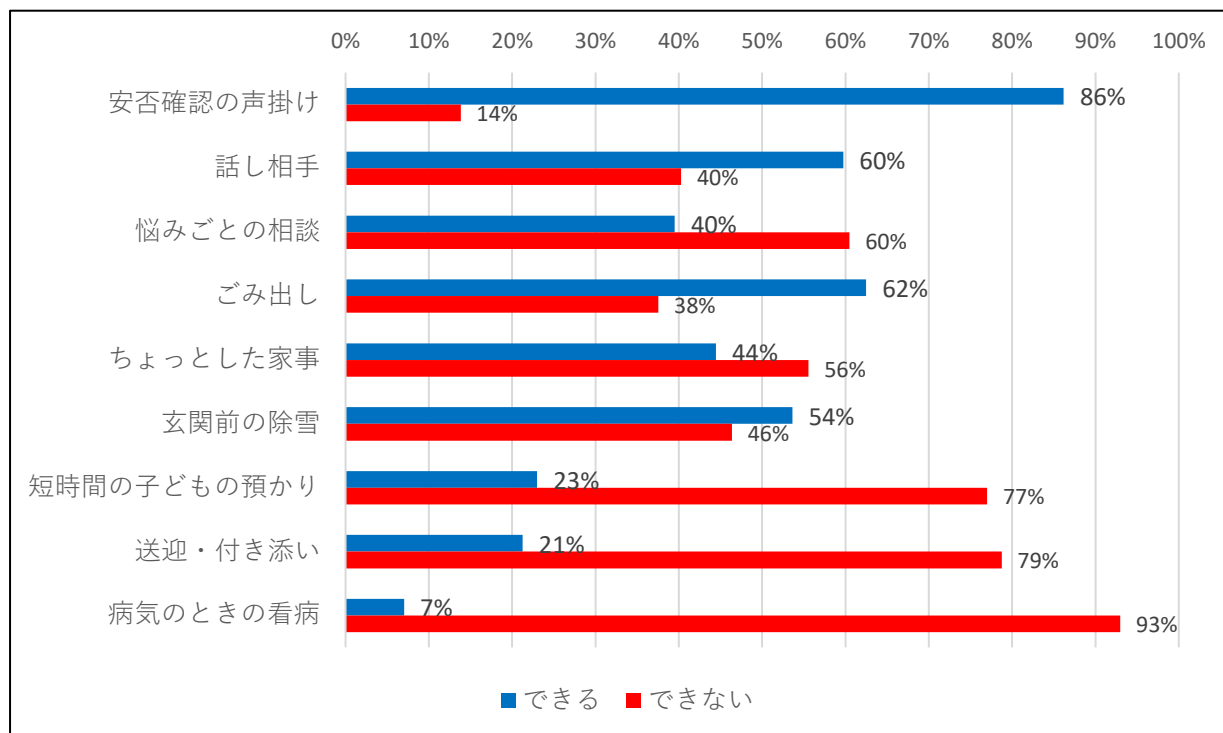
『行政区ごとに、福祉委員がいることを知っていますか』

福祉委員の認知度は59%となっており、前回の調査結果48%より増えています。



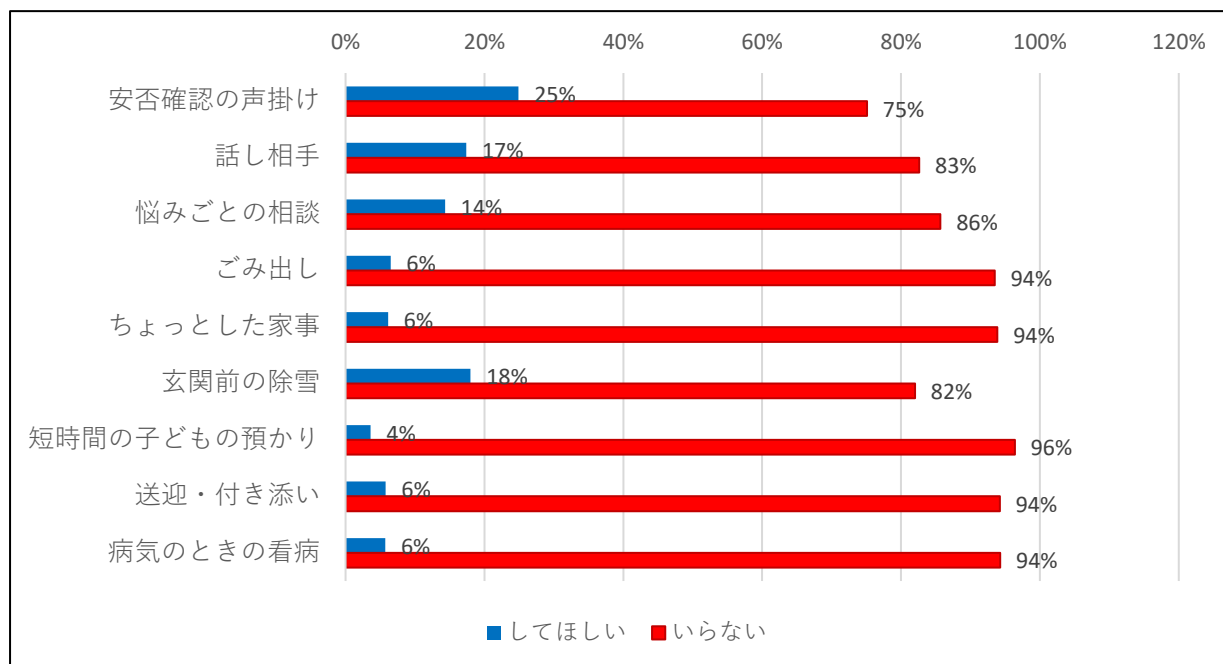
『地域で困っている世帯があった場合、あなたが手助けできることは何ですか』

「安否確認の声掛け」(86%)、「ごみ出し」(62%)、「話し相手」(60%)の割合が高くなっています



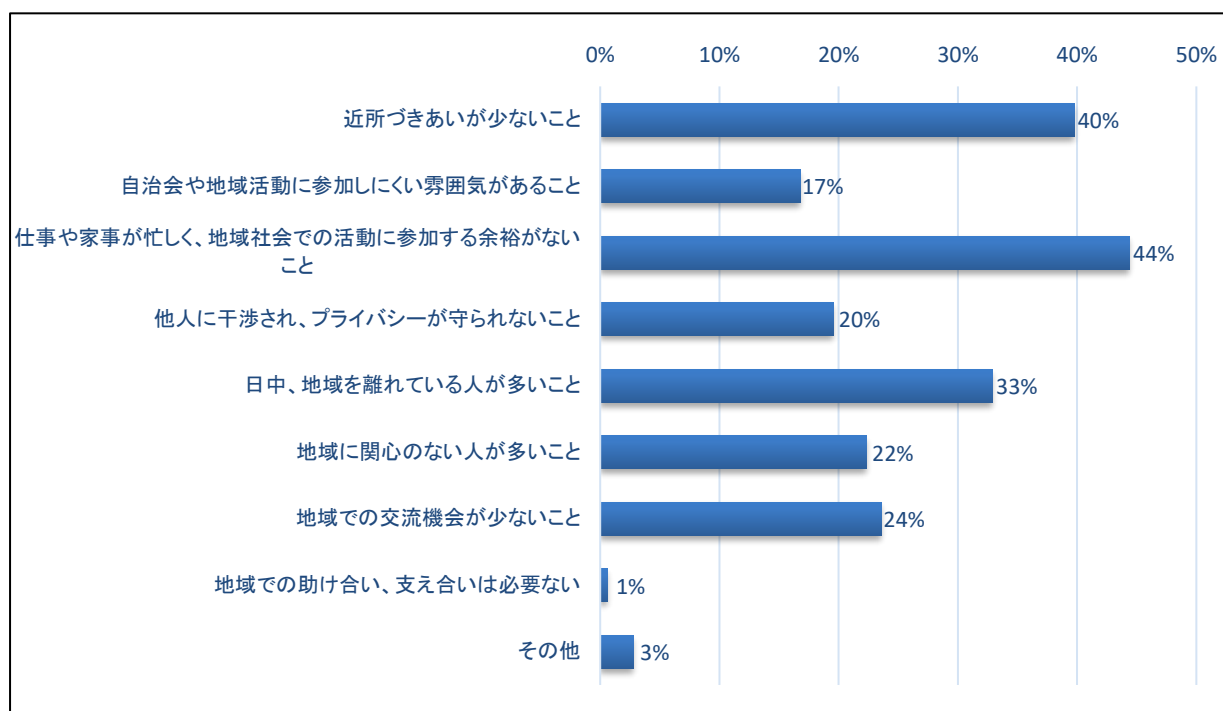
『地域の人に手助けしてほしいこと』

「安否確認の声掛け」(25%)、「玄関前の除雪」(18%)、「話し相手」(17%)となっており、地域の人からの手助けはあまり望んでいないことがうかがえます。



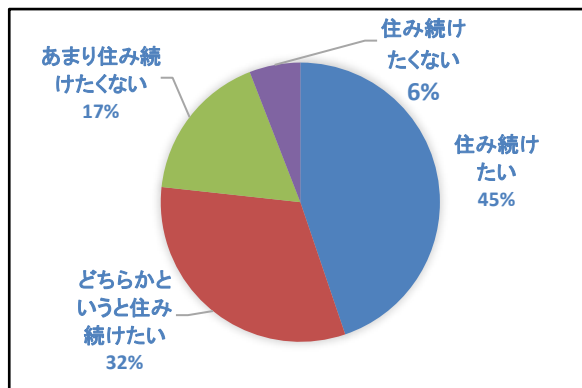
『地域で、お互いに力を合わせて住みよい地域社会を実現していくうえで問題となることは何だと思いませんか』(複数回答)

「仕事や家事が忙しく、地域社会での活動に参加する余裕がないこと」(44%)、「近所づきあいが少ないこと」(40%)、「日中、地域を離れている人が多いこと」(33%)の割合が高くなっています。



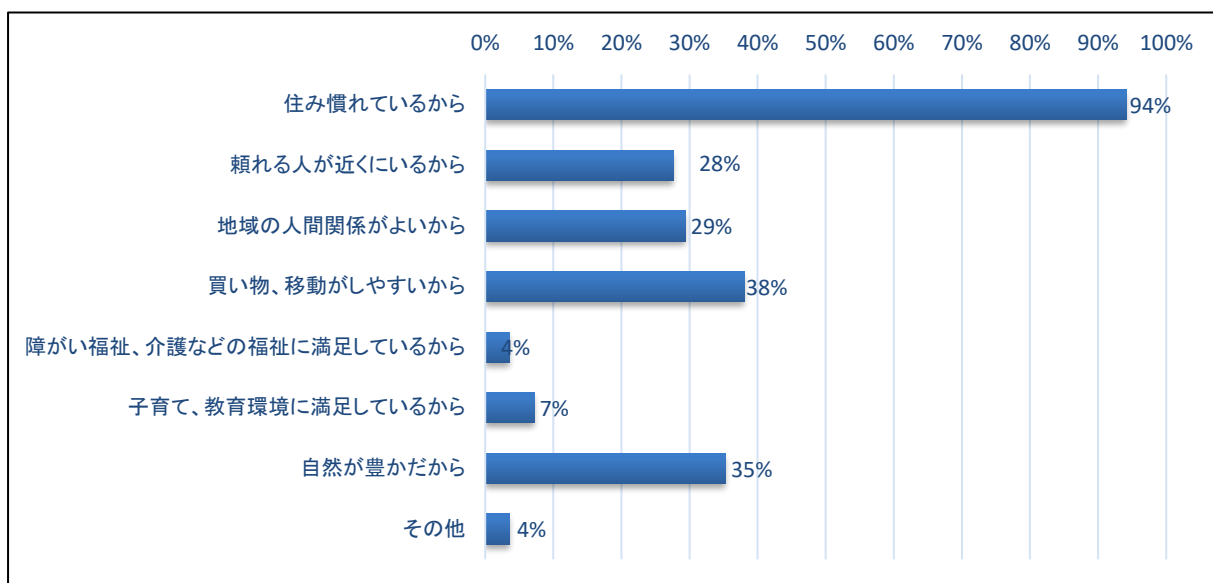
『現在住んでいる地域に住み続けたいと思いますか』

「住み続けたい」（４５％）、「どちらかといえば住み続けたい」（３２％）、「あまり住み続けたくない」（１７％）、「住み続けたくない」（６％）と、約８割の人が住み続けたいと答えています。



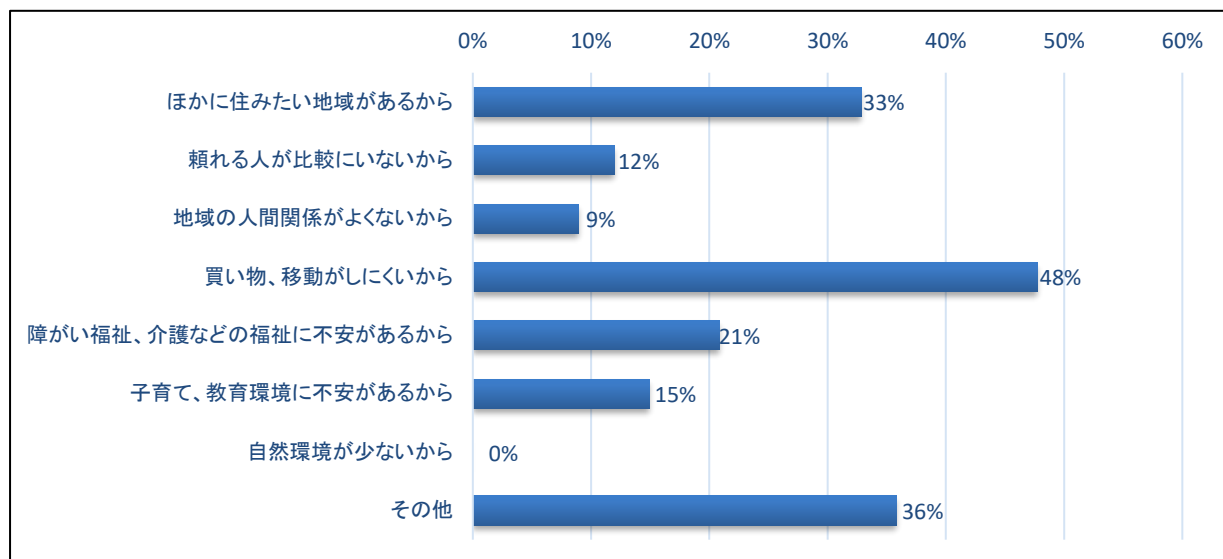
『住み続けたい理由』（複数回答）

「住み慣れているから」（９４％）、「買い物、移動がしやすいから」（３８％）、「自然が豊かだから」（３５％）の割合が高くなっています。



『住み続けたくない理由』（複数回答）

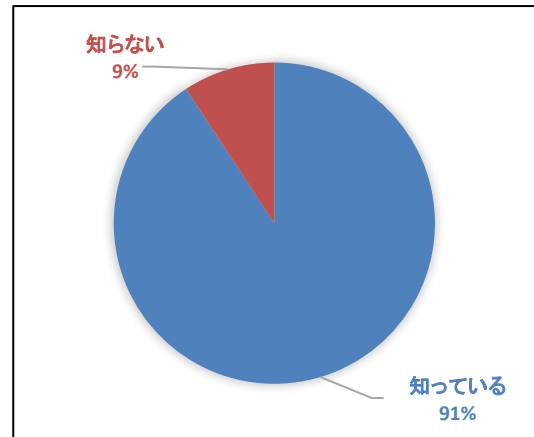
「買い物、移動がしにくいから」（４８％）、「ほかに住みたい地域があるから」（３３％）、「障がい福祉、介護などの福祉に不安があるから」（２１％）の割合が高くなっています。



<災害が起こった場合について>

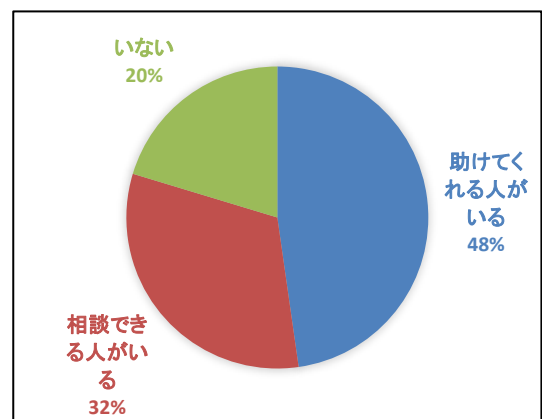
『地域の避難場所を知っていますか』

「知っている」(91%)、「知らない」(9%)
と、避難所の認識は高いことがうかがえます。



『災害のとき、身近に助けてくれる人や相談できる人がいますか』

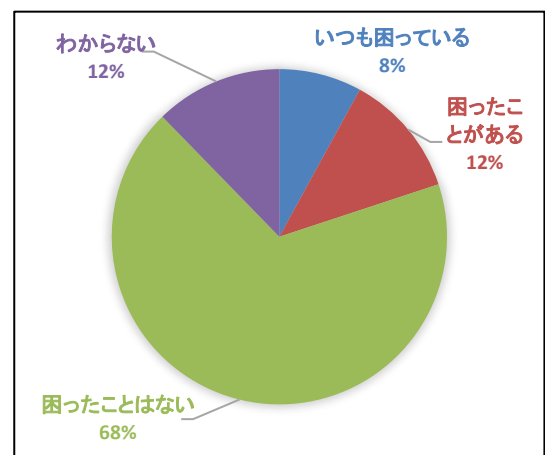
「助けてくれる人がいる」(48%)、「相談できる人がいる」(32%)、「いない」(20%)と、8割の人が災害時に頼れる人がいることが分かります。



<生活困窮について>

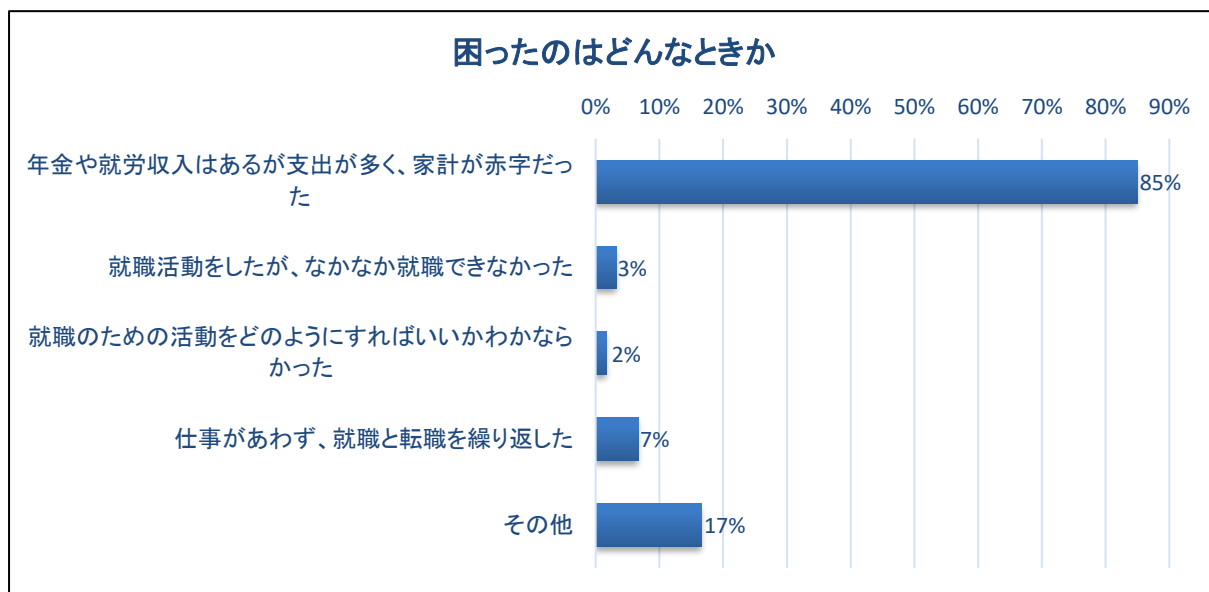
『生活費に困ったことはありますか』

「いつも困っている」(8%)、「困ったことがある」(12%)、「困ったことはない」(68%)、「わからない」(12%)と、2割の人が生活費に困ったことがあることが分かります。



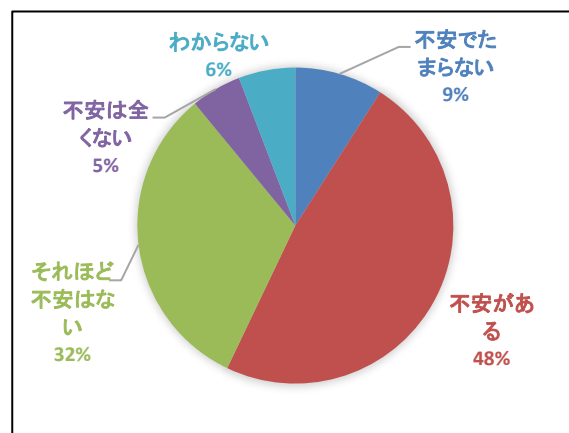
『生活費に困ったのは、どんなときでしたか』（複数回答）

「年金や就労収入はあるが支出が多く、家計が赤字であった」（８５％）、「仕事があわず、就職と転職を繰り返した」（７％）、「就職活動をしたが、なかなか就職できなかった」（３％）と、８割以上の方が収入と比べて支出が多いことによる赤字に困っていたことが分かります。



『今後の生活費に不安はありますか』

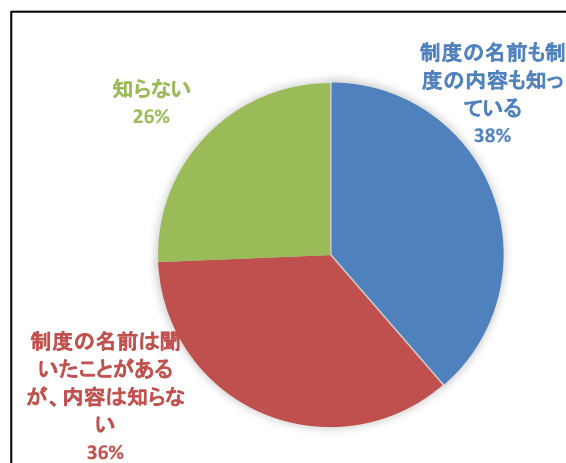
「不安でたまらない」（９％）、「不安がある」（４８％）と、半数以上の方が生活費に不安を持っていることが分かります。



<成年後見制度について>

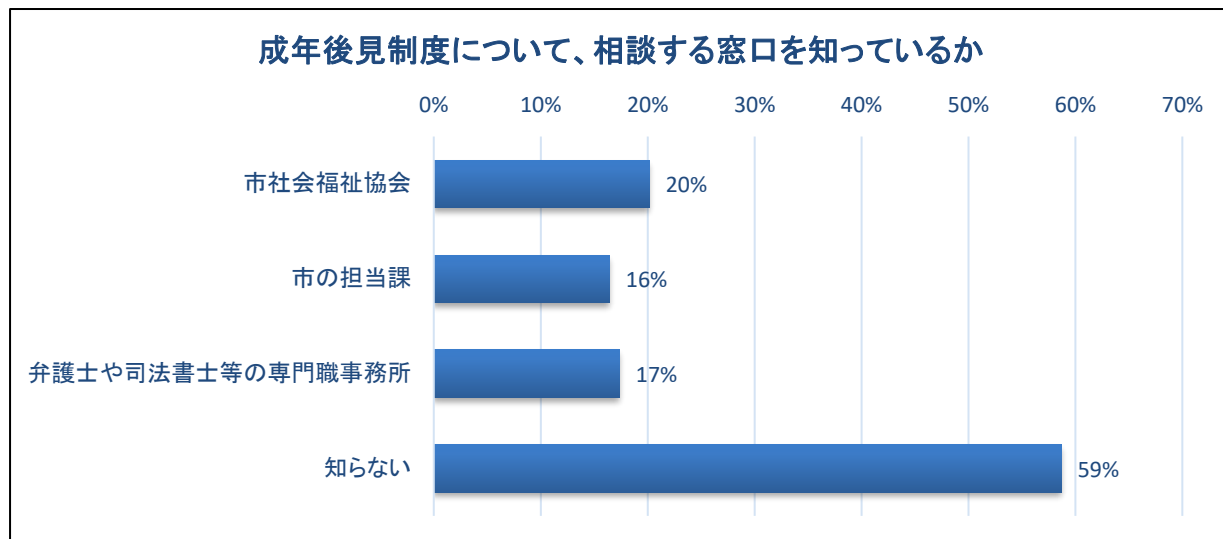
『成年後見制度について知っていますか』

「制度の名前も、制度の内容も知っている」（３８％）、「制度の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」（３６％）、「知らない」（２６％）と、名前はある程度認知されていますが、制度の内容については、認知度はそれほど高くないことがうかがえます。



『成年後見制度の利用について、相談する窓口を知っていますか』（複数回答）

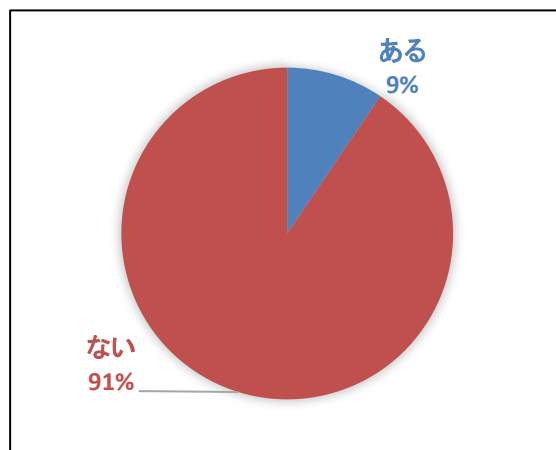
「市社会福祉協議会」（２０％）、「市の担当課」（１６％）、「弁護士や司法書士等の専門職事務所」（１７％）と、制度について認知が進んでいることがうかがえますが、「知らない」が５９％となっており、さらなる認知の浸透が必要です。



<自殺を防ぐための取組について>

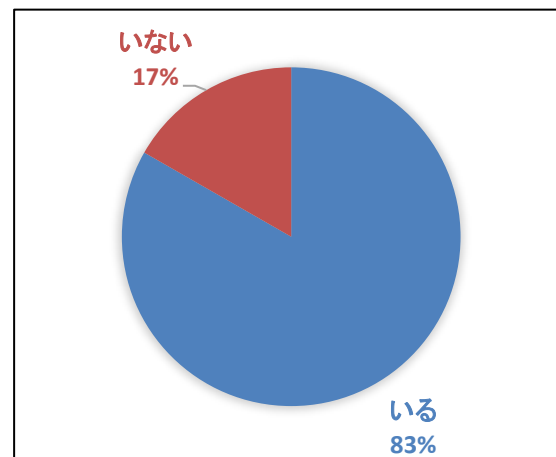
『自殺を考えたことがありますか』

自殺を考えたことが「ある」人は９％となっています。



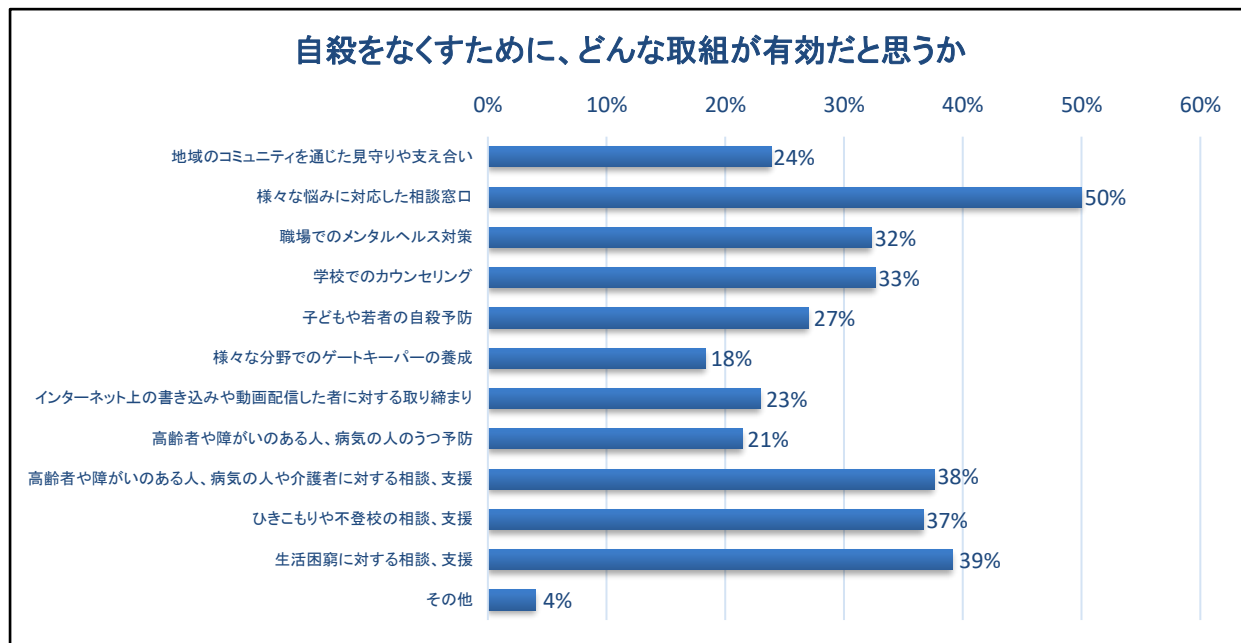
『不安や悩みなど、つらい気持ちを受け止めてくれる人はいますか』

受け止めてくれる人が「いる」人は８３％と、いざという時に頼れる人がいる方が多いことがうかがえます。



『自殺をなくすために、どんな取組が有効だと思いますか』（複数回答）

「様々な悩みに対応した相談窓口」（５０％）、「生活困窮に対する相談、支援」（３９％）、「高齢者や障がいのある人、病気の人や介護者に対する相談、支援」（３８％）、「ひきこもりや不登校の相談、支援」（３７％）の回答割合が高くなっています。



<地域福祉の充実に向けた取組>

『大野市の地域福祉施策を充実させるために、優先して優先して取り組んでいくべきだと思うことを教えてください』（複数回答３つまで）

「必要な人に、必要な支援をつなげる仕組みづくり」（４７％）、「どのような相談でも対応できる窓口の設置」（４０％）、「福祉活動を行う人材の発掘、育成」（２６％）、「わかりやすい福祉情報の提供」（２６％）の回答割合が高くなっています。

